

研究に関するお知らせ

研究の名称：当院外科での術後腹腔内合併症における抗菌薬使用に関する研究

■研究目的・方法・対象

感染症を起こした細菌などに対する治療として用いる“抗微生物薬”の効かない菌（AMR: 薬剤耐性微生物）が世界的に増えています。その対策として本邦でも 2016 年に AMR 対策アクションプランが策定されています。AMR 出現の原因の 1 つとして、できるだけ広い範囲の微生物をカバーする抗菌薬（広域抗菌薬）の濫用があるとされています。

しかし、外科領域においては、術後に腹腔内合併症（縫合不全や膈液瘻など）が起きてしまったときの治療として、広域抗菌薬の使用を推奨する報告もあります。

当院では、抗菌薬適正使用の観点から、術後の腹腔内合併症に対しては比較的カバー範囲の狭い抗菌薬（狭域抗菌薬）から開始していますが、狭域抗菌薬投与による治療の成功割合に関しては不明であるのが現状です。

したがって、術後腹腔内合併症における抗菌薬使用の調査を行うことで、もし狭域抗菌薬使用下でも治療成功割合が高いということが分かれば、狭域抗菌薬使用のメリットがあると考えられ、意義が大きいと考えます。

■研究期間

2021年8月1日～2022年12月31日まで

■研究対象・研究に用いる情報の種類

対象としては、2011年4月1日から2021年3月31日までの間に京都医療センター外科で、術後腹腔内合併症により治療された患者さんです。上記期間中に当院で（外来・入院を問わず）抗菌薬・抗真菌薬を使用された方は、その使用のデータ（薬剤名、薬剤使用量、薬剤使用日）を研究に使用させていただきます。

■個人情報の開示に係る手続きについて

本研究では、患者を匿名化してデータを収集致します。使用に際しては、政府が定めた倫理指針に則って個人情報を厳重に保護し、研究結果の発表に際しても、個人が特定されない形で行います。みなさまに新たにご負担頂くことはございません。

研究のため自分のデータが使用されることを望まれない方は、下記責任者までお知らせ下さい。

■研究責任者：

京都医療センター外科 後藤 健太郎

■お問い合わせ先

京都医療センター外科

〒612-8555 京都市伏見区深草向畑町1-1

電話：075-641-9161

■掲示場所・交付場所

京都医療センター外科ホームページへ掲載